

NOKAIDAI NOW

近畿職業能力開発大学校学生自治会の会長として活躍した生産機械システム技術科 浜田 祥汰さんにこの1年を振り返っていただきました。

まず相手の話を聞き、できないと決めつけてしまうのではなく、そのままではできないことでもどんなやり方をすればできるか、どこまではできるかをこちらからも提案するようにここがけました。

応用課程への進学が決まったころ、先輩から学生自治会の役員をしないかと声がかかりました。実は、高校時代テニス部の主将になりましたが、期待に応えられなかった苦い経験がありました。声掛けをいただいて、これは高校時代の悔しい思いを克服するチャンスかもしれないと考えました。ただ、私にも得意不得意があります。外部との交渉ごとはあまり得意ではありませんでしたので、その部分は同じ科の田中君にサポートしてもらおうということで自治会長を引き受けました。自治会長になって、他の科の学生と話すことも多くなったのですが、科によっても学年によっても特徴がことなることを知りました。就任してすぐにいろいろな学生から様々な意見や要望がきます。最初はこうした意見や要望を拒否することが多かったですね。でもあるとき、相手を不快な思いにしてみました。その時、「これではあかん」と反省しました。その後は、まず相手の話を聞き、できないと決めつけてしまうのではなく、そのままではできないことでもどんなやり方をすればできるか、どこまではできるかをこちらからも提案するようにここがけました。それでもこちらの思いが伝わらなくて、どう対応したらよかったか後悔する



自治会最大のイベントの一つ
ポリテクフェスタの様子

こともあります。

夏に向けて球技大会やポリテクフェスタ等大きなイベントを迎えることになりました。私は、計画建てやスケジュール管理を中心に行い、周りの役員と分担してイベントに取り組みました。今応用課程でのグループ学習として標準課題に取り組んでいますが、その時学んだことがこしたスケジュール管理等のマネジメントにも役立ちました。地元の高校等の協力もいただき、ポリテクフェスタでは新たな取り組みに挑戦することができました。それでも、学生全体に自治会からイベントに関するめ切等の情報伝達をどう行っていくかは課題として残りましたね。一部の科には十分に情報伝達できなくて、後になってからやりたかったことができなかったという意見を耳にしました。

仲間に恵まれましたし、この役職をして学んだことの方が多かったです。

様々な意見を聞き、周りを動かし、そしてイベントの計画作成やスケジュール管理をしていく。しかもみんなが納めてくれた自治会費を管理しながらボランティアで務めますから、これまでの学生生活で経験したことがない人の方が多いと思います。そういう意味では、自治会長って誰でもできるものではないと思います。でも、仲間に恵まれましたし、この役職をして学んだことの方が多かったです。ですから、ぜひ次の人にもがんばってほしいと思います。



生産機械システム技術科 浜田 祥汰さん

本記事は、「能開だより vol.45」で掲載したものを編集して掲載しています。